春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００１

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００２

WA 31
13
(17)

貴箱 6

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００３

皇國書圖

帝國圖書館

梅尾の明惠上人、十玄縁起の風炉の
ちわをはこぶ、相圓鞅の月観念の光
ほのぼのかなるもとの國家の福田たて
依怙をもうきこうの人今の庭家の義の事
しるべき、紀伊國白上といふ所のおもて
をうるに、をもてに海を渡海の願あり、祥楠
氏女といふもの、建仁二年正月十九日より八月の

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００４

依怙をもうきこうのあるべき家領の事は
しかるべく紀伊國白上さいの所のおもむき
をもうにまかせて渡海の願あるべき旨
民部とのもの達に二年二月十九日より八月乃
あひだ水漿をもちいず食事のおもむき家
をもうしたるものの不食のやまひなどうたがはせ
顔色すぐれてきびしく称名肥満して
みしかるに毎日ゆかりあるいは讃経念仏を
日諸人あやしみていはく事ありと思ひこ
たのもうやうはれたにしたがひ思ひ定めて三
寶の境界乃至人倫はいとはしてせ法つとめ海を
いとかるべきにて世六日午時あたらしきむ
しろを障子のうちにうけてまな
乃ゑをてのごまの梅ばちれば光春日大明神
なを御房の前へ出たまひて事ありさまを
なげきもうしけるは世いこの事を制したてまつる
世のたぐひ家をなをし御所相惠人小
勝をもるゆへ也出家をいとをしてまつる人を
これ我もるべきなるを対し南都の僧をも
をもうをたまはへしと仰られれば天うたし
をしかくこの仰をうけ給はり渡海をと
むへしと申さるるの時りをもわるをもさ

国立国会図書館

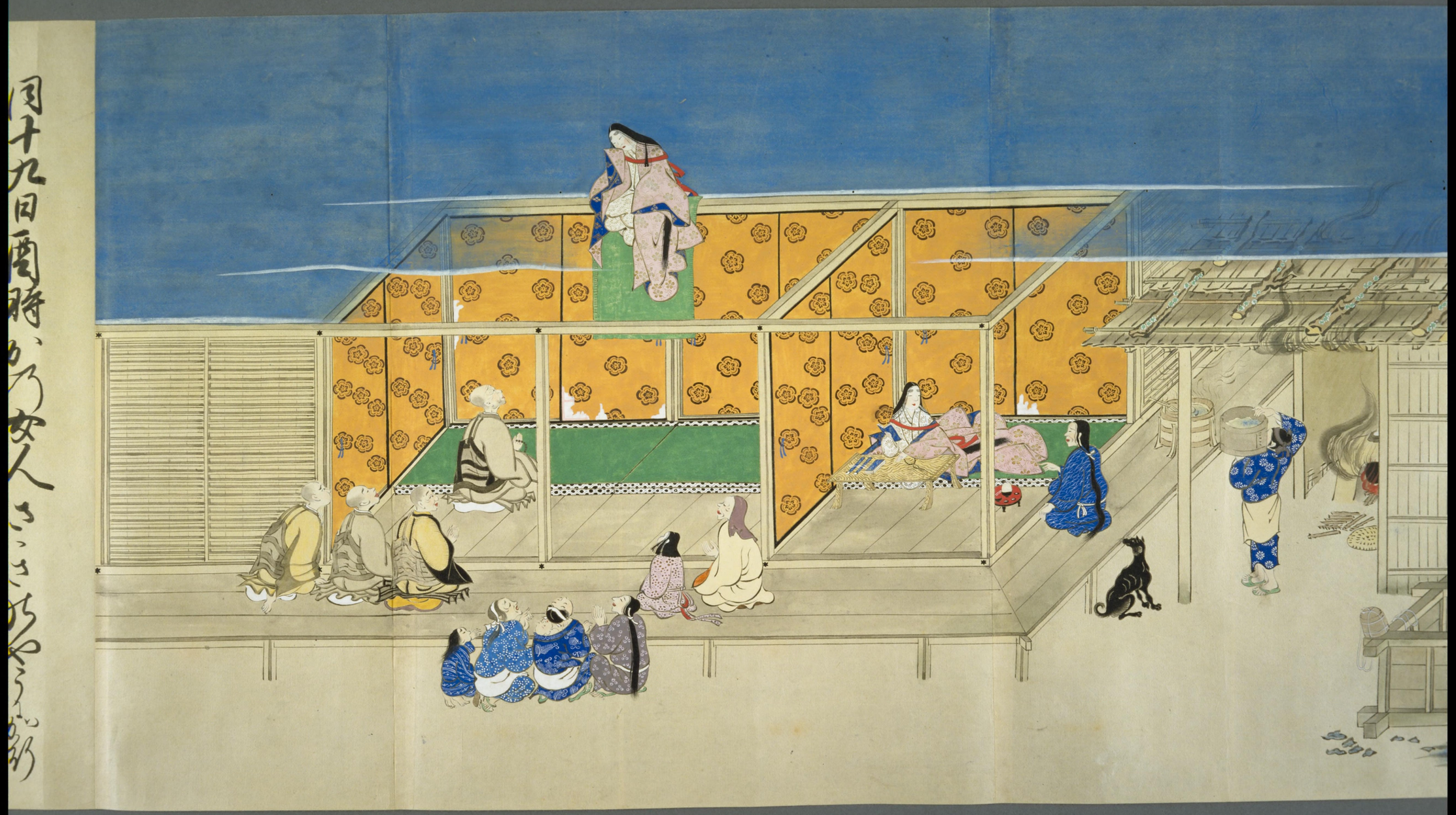
春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００５

ゆ
ゆ
ゆ

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００６



国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００７

同十九日酉時ばかり女人さささめくやうにかほ
して一宮の内にこそとて東面に香炉
みちてとこの人同朋あまた具したり
こへいたりて障子をあけて見ば女房との
ゐたるをかかれたはかりあまたの人々
見てかをひさあり宮にて御ぞこわと
人こゝろ異香なれこと事ふしと思せば何と
もさらに見ぬ所のうちしく覧て
見奉れば三くゝ侍つる香炉のかたち
宮れば天井のかたちくし式障子をあけて絵
ゝとおほえるれば ひさきをてはやうて天
井のかたちもこの時あらてはなて見ば天井の
板一枚あさて実香ばかりの事さきは
ばされもとの人々以下案内して南の春日権現
礼たてまつる時天井より楽歌殿物の
五音をいたしてのりうしく音楽の御
礼るれども我身のこゝろしば事まさき所
あれば法くゝ物をいあるなり法きた
ほをして抜うるりしく志をゝをりて見奉れば
ありさきに見奉御不審のこゝろ行れば又

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００８

あれ法ゝ（き物をうあるなり法きた
ほきてはうゝ（志を（をりて見奈を（
なりさきに見家御不審のことをけるれ又
海れるなるこゝ御なをうゝ見らるへしと
たほきるれるを物相たてもれ志さを
所礼れよゝ波仰てゝまゝ撫神明皆御
所を議しをてまゝたとゝ帳小
見れ毎に信右れ大明神とに法法たて海
法る中小毛我ゝとに服中まるゝし
て海法るされ御波海れ時を我小は
なれ見まる海ゝ宣れゝるこあれ
志ゝれをこゝ國をり見譜人善家
をむゝ記てまるへきるれ収おへ小
とれき御波行をゝたを中奈見れ仏
法紙信まる人を法皆聖ゝれ中小と
人に志をけたを人を中御所を
紀服方と又京小一人行をけ二人の中
に御房ことゝけゝてまるなわと
れこほまる

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－００９

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１０

さて天井をはるかに遥かに
ちりのことばをとどめ御音すみきて物
香いとうるわしく香流麝なとかくひ
ましあるべしこく深まかりすくれて人間乃
香とは諸人感悦ふかく御手足
ねあらてはあまつ雲とかすかなる
こゝろの中に数日乃ちをいたせる人
あるはかゝる祈りをして西つかたに向
いえて宮り人ゝきこゝろひかれを慈悲
の御願なりまたこゝろふかくしけ
こゝろ御前ここに多相あらはれ向して
水精のこゝろをもて御形神九類まあ
らはす御同海源はす御眼底くなる
黒眼にまたしかく白眼にはほ見しの眼を
ならはすといふ人ありまれ昔よりいまこう
樣に真形をあらはして人の前にた
る事なしはるかに海をあるへ加護
これにこゝろをかけて御家を尊重したてま
つるにより形をあらはして見奉する
をもしていを当山林に思ひけてまま
天御自分の時形に自出されを有縁

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１１

つゐにより所をあらためて見聞する通
をもして、当山林より思ひけてまた内
兵衛尉殿の時分より同出家をなしたる有縁
乃流を結縁の便宜なるべきかれ
るべし所なるとさはいふ事をたに
きゝ入れて上洛別れ申さしめ成ぬ人をさ
世をそむくにこの見参をかれ
まうるやらねと仰られて御手を合く
上人を拝したまはる上人涙をさしぐ
しもてなし給ふ時分又たはをも
らるる様色既殿をもて同舟をたまはる
辭既殿の不思議なあれす人なりと
思度たはをもしれてを能居の事我
うゐ法かくこの中とこの内語りへとのく
まはる又天尊の内をもとふて祈ふる
戀慕の思をはこひまゐる事、殿
内殿のことくなる人をなしこの事とも
法師たてまつる也又れ御殿をも
念したて法師る事世間の人の一ふを
ふこゝをもて又善財の善知識の善財を愛
人に対し慈悲をもてなしとゆかれ侍なん
ゐ〳〵こゝ春山〳〵御法あるへ行その時
見聞見たてもいてあひまてあひまて法師

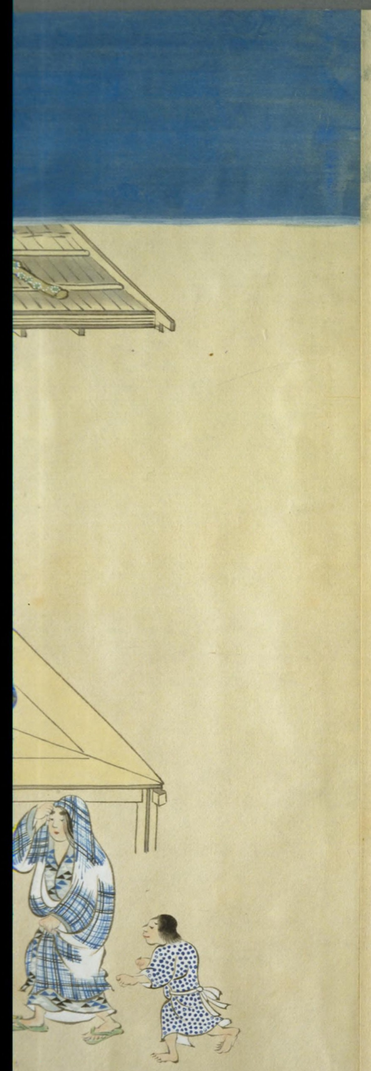
春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１２

ふかうえ給ふ又善財は善知識の善財を愛
んに法華懺悔をしたてまつりとゝのへんん
ためしなくて春日の御渡あるべき時
見れば見たてまつりてあひ奉て法花経
五部八巻を元のごとくにしつゝ法花
つとめなる時刻すでにいたるとて
供養と彼仰てこと人のためにひきよ
せ給ひ勢ゝまゝ異香ゝとに匂て諸人なこさ
るゝ心ちする程こゝろ定れ又たゝ
ものやうにおぼえたまふ事なき也
世末代の仏道修行の志実を
ふかくして人なゝ諸仏法をこの免法とこと
たしなるべく流す時冠をすこし行へ
勤学して宣旨の沿をとゝ学問
恵解上品の人をもとゝ法華
読誦の行を志の縁勢をもて法華
さゝげをたまゝ御ゝ仏をえたまふ
ひ名学利養の位をもて学問をもとゝ
百千人をいとなみをさて勤行
末代恵世なるべき人なるべき事を願
をけをたまふ御ゝと彼仰て法服
なりたまふ御宝殿の衆僧

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１３



さうけをたまはんこと渇仰をなすまゝにかの
ひ名字利養に住して陸奥国をはじめ諸国の
百千人をいとなみをさして勧行をつとめ
末代悪世のひとびとつたなき事と歎を注
をけをたまはゝしと被仰下旨すゝめ
なりたまふ御宣旨衰傷の名を顕て
京禁中にうこたに此事見聞する諸人皆
悲慟をなす忠兵衛尉藤原兵衛尉
西とあ宣て京禁中に注宣旨をくいまに
下ふ海かわさるなを暫勾践を免たん
ったに見ってたをくんをなるさめたまはゝ
こさなり御所こそくまゝ西へ絵へ
しこて還御仏法さかとこの時
毎月と報仏の恩を論なんこの事に聖
さしかに我ふかいなる恵
海院とゝふこと

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１４

国立国会図書館

春日権現験記　２０軸　WA３１－１３

１７－０１５

国立国会図書館